

慢性口内炎（猫）

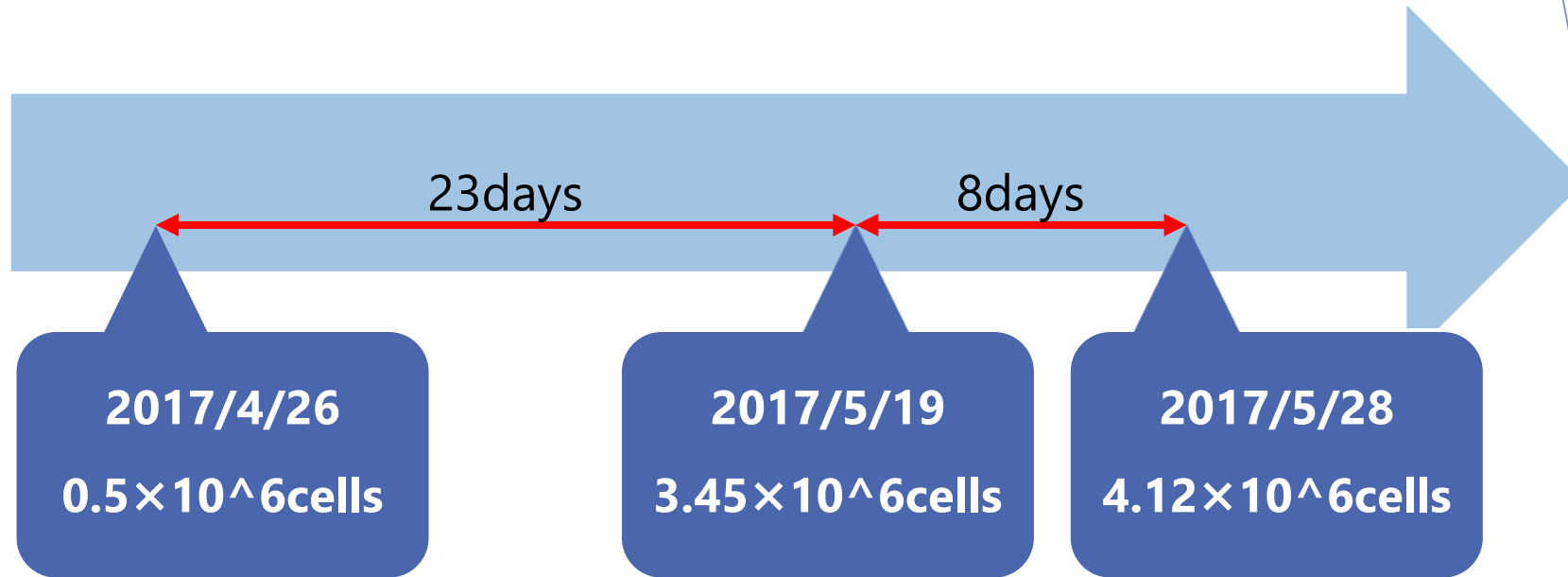
- ▶ 猫、9歳、♀
- ▶ FIV（－）
- ▶ 診断：口内炎
- ▶ 症状：ステロイドによる皮膚脆弱化
- ▶ 治療経過
 - ・2016/1：口内炎と診断⇒1ヶ月ごとに治療
 - ・2016/6：抜歯⇒経過良好
 - ・2016/8：流涎みられるが食欲あり
 - ・2017/4：幹細胞療法提案

⇒幹細胞治療の目的：抜歯によるステロイド剤回避効果が十分に

みられなかったため、口内炎の疼痛緩和ケアとして
（犬歯周囲は炎症もみられず口内炎には関与して
いないと判断したため抜歯せず）

慢性口内炎（猫）

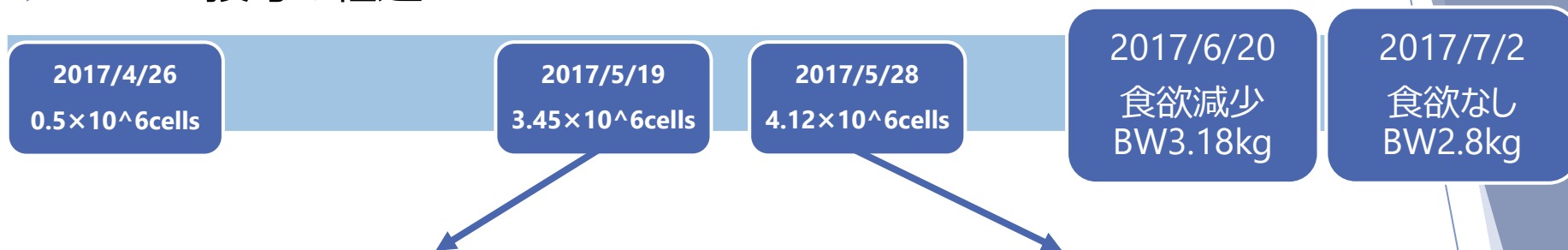
- ▶ ADSC投与：計3回



- ▶ 3回とも他家ADSCを投与
- ▶ 1回目の投与ではADSCが十分に増えなかったため投与量が少なかった
- ▶ 期間中の体重は約4.02kg $\Rightarrow$ 1.0×10^6 cells/kgを目途に投与

慢性口内炎（猫）

▶ ADSC投与の経過



5/19 口腔内の赤み減少、皮膚の様子も良い
⇒少量のADSC投与でも効果あり



5/28 よだれ減少
幹細胞投与終了

慢性口内炎（猫）

▶ 獣医師コメント

- ・ADSC投与後は、よだれが減り、顔つきもよくなり、元気が出た様子
- ・幹細胞治療を始める前に皮膚が一部剥がれていたが、投与期間中は徐々に良くなっていった
- ・3回目の投与まででオーナーの満足のいく治療結果が得られた
- ・しかし、本症例では幹細胞治療終了後に徐々に疼痛が認められ、食欲の減少、流涎の増加がみられた
- ・皮膚の様子は改善がみられたまま良好だが、口内炎治療目的であればさらなる継続した投与が望ましいかもしれない